

文化財の保存・活用に取り組む 民間の団体の事例

※本資料は、民とのパートナーシップに関する検討に資するよう、
文化財の保存・活用に取り組む多様な団体の事例を収集したもの

(参考) 基本計画の指定法人と、所有者とともに保存・活用を担う主体の
業務の違いイメージ

本資料における事例はこちらのイメージで収集

地域の文化財に広く関わる取組

＜相談等＞

- 当該文化財に知識を有する者による
情報提供、相談、研修会実施、人材派遣
- 管理又は修理への必要な助言・援助

＜事業実施等＞

- 文化財の維持管理の実施
- 環境保全、施設整備
 - ・案内板・ベンチ・トイレ等の整備
 - ・清掃や周辺環境の手入れなど環境保全
 - ・未指定を含めた文化財建造物などの活用
- 文化財の普及啓発
 - ・シンポジウムやイベント等の開催
 - ・ガイド育成
 - ・教育プログラムやツアーの企画・実施
 - ・情報発信の実施
- 寄附・クラウドファンディング

＜調査研究等＞

- 地域における文化財の調査研究
など

個別の文化財について
所有者が実施すべき内容に
所有者と共に取組む

＜相談等＞

- 所有者からの保存・活用の相談
- 保存活用計画の策定支援

＜事業実施等＞

- 所有者とともに文化財の管理や修理、活用
に取組
(例えば、公開を実施するための市民ボラ
ンティアの取りまとめ、資金集めの支援、
修理実施に向けた助言、清掃など日常的
な管理)
など

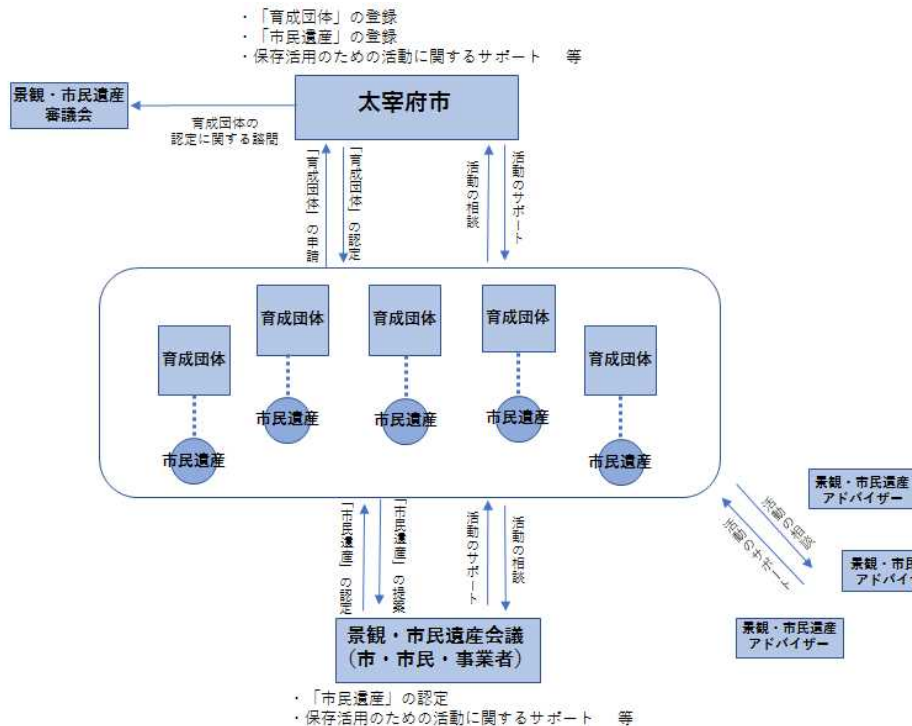
太宰府市における市民遺産「育成団体」の仕組み

【取組のポイント】

- 太宰府固有の物語やその物語の基盤となる文化遺産について、「育成団体」からの提案に基づき「市民遺産」として認定・登録を行う。
- それぞれの「育成団体」が、「市民遺産」提案の際に提出した活動内容に基づき、保存活用に関する自立的な活動を行う。

【「市民遺産」の概要】

- 市民や地域又は市が伝えたい太宰府固有の物語、その物語の基盤となる様々な文化遺産及び文化遺産を保存活用する活動を総合（平成22年度発足）
- 市の登録を受けた「育成団体」が「市民遺産」と当該市民遺産に係る保存活用の活動を提案する
- 市も含めた第三者機関である「太宰府市景観・市民遺産会議」が「市民遺産」を認定し、市が登録する



【育成団体について】

任意団体（地域の自治会・子供会・区民、文化遺産調査ボランティア仲間、地域の講座受講者の集まり、等）、NPO法人、公益財団法人等であり、特に制限はなく幅広い団体が「育成団体」として登録している。

【育成団体の活動一覧】

育成団体	「市民遺産」名称	物語を伝承するための活動内容
太宰府木うそ保存会	第1号「太宰府の木うそ」	・木うその制作技術伝承と原木育成・確保
五條風の会	第2号「八朔（はっさく）の千燈明（せんとうみょう）」	・神事「八朔の千燈明」の後継者育成
四王寺山勉強会	第3号「かつてあった道「四王寺山の太宰府町道」」	・「四王寺山太宰府町道」の整備、継承
NPO法人 歩かんね太宰府	第4号「芸術家 富永 朝堂（とみながちょうどう）」	・「富永朝堂」と彼が愛したまちを伝えるまちあるき
太宰府万葉会	第5号「万葉集つくし歌壇」	・つくし歌壇と万葉集の講座・講演会の開催 ・出前授業、万葉歌碑めぐりの開催
辰（とき）山会	第6号「太宰府における時の記念日の行事」	・「時の記念日」の行事の継承
榎文化保存会	第7号「隈彦公（くままるこう）のお墓」	・隈彦公の墓守
絵師萱島家保存会	第8号「太宰府の絵師 萱島家（かやしまけ）」	・萱島家四代5名による作品群の継承
かるかや物語を伝える会	第9号「刈萱（かるかや）の閑跡とかるかや物語」	・「刈萱の閑跡」の保全 ・「刈萱の閑」、「かるかや物語」についての学習会の実施
太宰府梅ばやし隊	第10号「太宰府の梅上げ行事」	・梅上げにかかわる技能の伝承 ・梅上げ行事の記録の収集
高尾山の自然と歴史を語り継ごう会	第11号「高雄の自然と歴史」	・高雄地区の文化遺産調査活動、周知活動 ・高雄地区の「豊かな自然」の保護活動
公益財団法人 太宰府メモリアルパーク	第12号「太宰府悠久の丘メモリアルパークからの眺望」	・太宰府メモリアルパークの眺望に関する周辺環境の保全 ・太宰府の歴史・文化に関する社会貢献活動



特定非営利活動法人 NPO 萩まちじゅう博物館

【取組のポイント】

- 既存のまちづくり団体とNPO萩まちじゅう博物館、行政、博物館が協働し、まちじゅうを対象とし、指定・未指定に関係なく、自分たちが大切だと思う文化財を保存・活用
- 歴史的建造物等の有形不動産だけでなく、民具や美術工芸品などの有形動産遺産についても保存・活用
- これまでの活動で発見・調査・認定・登録してきた指定・未指定の文化財を活用したまちあるきツアー商品を開発中

【設立の経緯】

萩博物館（旧萩市郷土博物館）の移転整備を契機に、まち全体を博物館と見立てた「萩まちじゅう博物館」構想が立ち上がり、旧博物館の友の会や定年退職者、主婦などを中心に、市と協働で平成16年市民有志により設立。

【組織の目的】

萩市の文化遺産を再発見し、それらが散在するまち全体を屋根のない博物館とみなし、その実現のために市民、民間事業者及び市の連携・協働による新たなまちづくりを展開すること。

【事業内容】

- 文化遺産のデータベースの管理
- リスト・カルテの管理
- 文化遺産の発見・調査・認定・登録（古写真・レコード・藍・民具等）
- 文化遺産の保存・保全・モニタリング
- 新たな文化遺産の創出
- 文化遺産を用いた文化解説
- 文化遺産情報の発信・公開
- 文化遺産に関する研修
- 萩博物館の受付、清掃、守衛
- レストラン、ショップ経営 等

【具体的な取組の例】

①土蔵に眠る
美術工芸品、
生活用具等を
展示・公開



②地域住民の家を公開。家のおたからを主人が
観光客へ解説。
祭りの道具、
船具、壺、茶
碗等



連携する浜崎しっちょる会の例

【今後の展開】

これまで発見・調査・認定・登録してきた文化遺産を活用したまちあるきのツアー商品の開発中。既に商品開発のためのワークショップやマップの作成を実施

【効果】

- これまで活用されていなかった文化・文化財の保存と活用
- 住民による魅力再発見による普及啓発



文化遺産の調査



文化遺産を用いた文化解説

公益財団法人 妻籠を愛する会

【取組のポイント】

- 昭和40年代から全国にさきがけて「保存という観光開発」に着手
- 昭和51年、妻籠宿が初の「重要伝統的建造物群保存地区」に選定
- 「売らない」「貸さない」「こわさない」の三原則を理念とし、現在も実際に住民が生活しながら、景観・歴史的風土を守りつつ観光に利用していく活動を行っている

【組織概要】

所在地：長野県木曽郡南木曽町吾妻2159-2

設立：昭和43年9月

代表者：理事長 小林 俊彦

概要：妻籠宿を保存しつつ観光資源として活用するため、妻籠宿を中心に在郷の集落を含めた地域、ほぼ江戸時代の妻籠村地域を全戸網羅した住民組織

【設立の経緯】

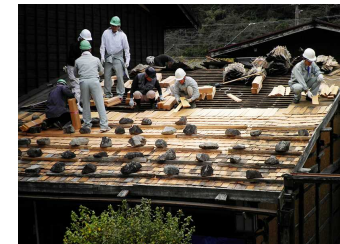
- 宿場としての機能を失った妻籠宿は衰退の一途をたどり、昭和30年代後半から40年代初めにかけて急速に過疎化と高齢化が進み限界集落化
- 昭和43年、長野県の「明治百年記念事業」を活用して、本格的に妻籠地区の保存事業開始。集落再生の道を探る中で、宿場保存と環境保護から妻籠を活性化するという方法を見出し、保存運動を始めるための住民組織として発足
- 昭和58年2月財団法人化、平成25年3月公益財団法人認可。

【組織の方針】

- 保存を最優先させるために、妻籠宿と旧中山道、街道沿いの観光資源（建造物・史跡・路端の石仏・自然景観等）について、昭和46年に住民憲章に記載した「売らない」「貸さない」「こわさない」の三原則を貫く
- 観光収益は外部業者ではなく妻籠の人々に平等に分配されるべきという理念
- 地元住民を中心とした保存事業であり、観光的利用であるという考えを周知
- 妻籠の観光開発は、自然環境も含めた宿场景観あるいは藤村文学の舞台としての景観保存以外にはありえないという保存優先の考え方を徹底

【活動内容】

- 文化文政風俗絵巻の行列
- 板葺き石置き屋根葺き替え
- 景観整備作業
- 中山道保全作業
- 冬期大学講座
- 住民憲章の実践など



「妻籠を愛する会」HPより <http://tumagowoaisurukai.jp/>



寺下の街並み
(左) 重伝建地区選定前
(右) 重伝建地区選定後
「妻籠を愛する会」HPより
<http://tumagowoaisurukai.jp/>

一般社団法人 気仙沼風待ち復興検討会

【取組のポイント】

- 東日本大震災に被災した地域において、歴史文化遺産を保存・活用することを通して復興に寄与
 - ・震災後、大規模復興整備が想定され、歴史的建造物等の保存が危惧される中、被災登録文化財を修復
 - ・被災登録文化財の修復状況等の情報発信やモニターツアーの実施等とおして、歴史文化遺産を保存・活用する機運を醸成

【組織概要】

住 所：宮城県気仙沼市魚市場前1番1号(事務局)
 設 立：平成25年10月5日
 代表者：菅原千栄
 目 的：貴重なまちづくり資源である気仙沼市内湾地区(風待ち地区)の歴史文化資源の保存・活用を検討し実践する

【設立の経緯】

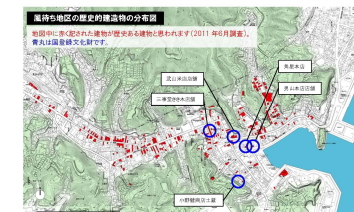
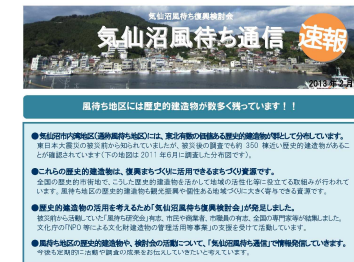
- 平成14年、地元の建築士等を中心に「風待ち研究会」が設立され歴史的建造物の調査を実施し、その後、7棟の登録文化財が登録
- 平成23年、震災により風待ち地区の登録文化財7棟全てが被災し、うち1棟は津波に流され滅失した
- 平成24年5月、歴史文化資源の保存・活用を復興に生かすため、風待ち研究会を中心に、登録文化財所有者、市民有志、気仙沼市職員、当地に関係の深い大学教員や実務家等により、「気仙沼風待ち復興検討会」が設立された
- 平成25年10月、一般社団法人となった

【事業概要】

- 歴史的建造物の保存・活用を復興に生かす取組
 - ＜登録文化財等歴史的建造物の保存・活用＞
 - ・被災登録文化財、地区の歴史的建造物の調査
 - ・登録文化財の応急修理：内外の募金、SOC基金(東日本大震災被災文化財復旧支援事業)等
 - ・角星店舗(登録文化財)：残された2階部分の部材を再利用して復元し、酒造会社として営業再開
 - ・千田家住宅(登録文化財)：津波で浸水したが、所有者が保存に同意し、平成25年に登録
 - ＜被災登録文化財の修復状況等の情報発信＞
 - ・気仙沼風待ち通信
 - ＜歴史文化を生かしたモニターツアーやまちづくりイベント等＞
 - ・一関市と連携したモニターツアー

【効 果】

- これまで活用されていなかった文化・文化財の面的な保存・活用
 - ・重要な歴史的建造物を登録文化財候補としてリスト化
 - ・復興に伴う都市基盤整備と連動した保存活用計画の策定
 - ・被災登録文化財の応急修理及び復原(6棟全ての修復が目標)
- モニターツアーの成果による観光ツアーの本格実施
- 都市計画、文化財、観光等の様々な分野の連携体制の構築
- 被災登録文化財を「風待ち復興ミュージアム」として活用のネットワークを生み出し地域復興に貢献



気仙沼風待ち通信
 (出典：(一社)気仙沼風待ち復興検討会HP)



角星店舗
 (出典：(一社)気仙沼風待ち復興検討会HP)



千田家住宅(応急修理後)
 (出典：(一社)気仙沼風待ち復興検討会HP)

まいまい京都

【取組のポイント】

- 京都の歴史や文化の多様な魅力を伝える、京都の住民によるガイドツアーの実施
- 大工の棟梁、考古学者、庭師、元生糸問屋など京都の住民が各々の得意分野で地元をガイドするまち歩きツアー
- 専属のガイドは抱えず、その都度地域住民へ依頼をすることで運営。年間600ツアー実施。定員稼働率98%。

【概要】

- 京都の住民が得意分野で地元をガイドするまち歩きツアー
- まいまいとは「うろうろする」という京ことば
- テキストで養成されたガイドによる他のツアーとは一線を画し、決められた内容のガイドではなく、情報を各々のガイドの思いや知識から提供するのが魅力
- NHK番組『ブラタモリ』で京都を舞台にした放送に協力した団体。

【組織の目的】

- 都市の魅力は多様性や重層性にあり、京都のまちの多様性を顕在化させて楽しみたい
- 「まいまい京都」が大切にしていることはガイドさんの“愛”。地元への愛、仕事への愛、ディープな趣味への愛、そこに暮らす人々への愛。その愛が皆に伝わり、京都をもっと好きになってほしい

【運営方法】

- インターネットでツアーを広報し、参加受付を行う
- ガイドは地域住民に依頼
- 各ツアーにはガイドとは別にスタッフが付き添う
- 参加費は平均2,500円で、ガイドと按分

【効果】

- 多様な旅行形態の選択肢の幅を広げた
- 京都のまち全体の魅力掘り起こしへの波及効果
- 楽しみながら案内をしてくれる人の魅力の発掘

【事業内容】

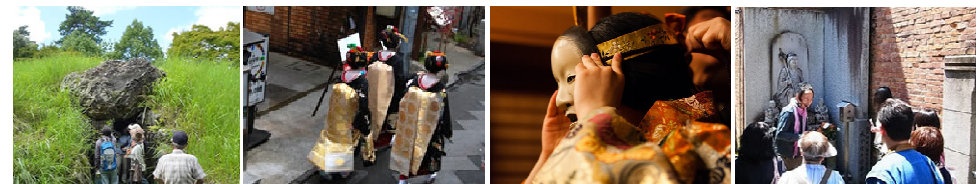
まち歩きツアーで京都の魅力を発信

【ツアーで紹介されている文化・文化財】

史跡、古墳、社寺、町家、近代建築、廃線跡、信仰、物語、祭、妖怪、石仏、狛犬、西陣織、京料理、宇治茶、生糸問屋、歌舞伎、写経、舞妓、かま風呂、古地図、手ぬぐい、仏師、庭師、能楽師、染め職人 等

【ツアーの一例】

- 歌舞伎入門カフェ☆歌舞伎ってこんなにも面白い～役者・演目・様式美、京の風物詩「顔見世興行」みどころレクチャー～
- 僧侶といく、御影堂から非公開エリアまで～白書院、大寝殿、宮御殿...東本願寺めぐり～
- タモリさんを案内したガイドと、嵐山・美しさの裏側へ～断層が生んだ美しさ、600年前の地図でめぐる幻の巨大都市～
- 考古学者と古墳にコーフン！石室の内部を探検しよう～古墳が密集する太古の聖地へ、10の古墳めぐり～
- 秀犬、猛犬、珍犬、駄犬...狛犬研究者とコマイヌ生態観察～名石工・石茂あらわる！可愛すぎる浪花狛犬、イカつい古代式狛犬...
- 祇園の旅館支配人と「ぞめく」、謎に満ちた花街物語～革新的な先斗町から、しきたりの祇園町まで～



まいまい京都のまち歩きツアーの様子（出典：まいまい京都HP）6

特定非営利活動法人 長崎コンプラドール

【取組のポイント】

- 地元をよく知る地域住民がガイドとなって、文化・文化財をまち歩きコースのスポットとして活用する「長崎さるく」を実施
- 地元住民と観光客の交流が生まれ、長崎市民が自分のまちに誇りをもって楽しむことのできるまちが創造されている。
- 長崎だけに留まらず、日本各地のまち歩きの練度を上げると共に相互の情報共有・連携を推進している。

【設立の経緯】

- 観光客の減少を危惧した市が2004年に「長崎市観光アクションプラン策定委員会」を結成し、まち歩きを主体とした住民参加型の仕掛けを検討。
- 2006年に市民が企画運営するまち全体を会場としたまち歩き博覧会「長崎さるく博'06」を開催。
- 博覧会に関わった市民プロデューサーを中心に、まちあるき型観光を発展させる組織として「NPO法人長崎コンプラドール」が組織された。

【組織の目的】

長崎県を訪れる人々に対して、長崎県の歴史文化や自然を紹介し、観光動向の調査研究、まち歩きや住民主体のイベント等のノウハウの提供による各地の人材育成とネットワーク化に関する事業を行い、地域の活性化に寄与すること。

【構成メンバーの職種】

広報宣伝、デザイン、地域活性化イベント企画運営、出版・マップ作製、ガイド養成、講演、取材・ライティング、特産品の製造販売企画、組織化、食文化開発

【活用する文化財の種類】

町並み、史跡、歴史的建造物（社寺、教会等）、天然記念物（古木、巨樹等）、食（菓子、等）、その他（狛犬、文学碑、手水鉢、道、墓地、橋等）

【事業内容】

- 文化・文化財をまち歩きコースのスポットとして活用する「長崎さるく」を実施。
- 地元をよく知る地域住民がガイドとなることから観光客をコントロール。

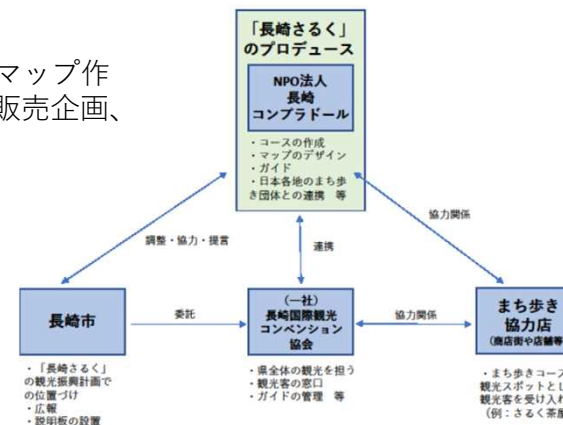


長崎さるくのまち歩きコースのマップ



着地型周遊ツアー「長崎さるく」

【他団体との連携】



【効果】

- 観光客の増加
- 経済波及効果
- これまで活用されていなかった文化・文化財の活用



出典：長崎さるくから学ぶまち歩き

特定非営利活動法人 たいとう歴史都市研究会

【取組のポイント】

- いつでも国の登録有形文化財となれるよう、歴史的建造物の価値を担保しながら保存・活用を実施
- 建物の管理をオーナーに代わってNPOが行い、店舗を貸出、その賃貸料から地代を支払うしくみで継承
- 他の民間事業者との連携を図り、各々の得意分野を生かしたまちづくりを実現

【設立の経緯】

10年間空家となっていた上野桜木の明治の屋敷型住宅（市田邸）を借用する際に任意団体として平成13年3月より活動を開始。

【組織の目的】

歴史的建造物の保存・活用を図る調査研究及び提案、実践活動を行うことで、住み続けたい町の魅力を育て、潤いのある都市生活に寄与することを目指す。

【事業内容】

（1）維持管理・活用運営

歴史的建造物の維持管理や活用の企画・提案の実施。現在、下記5件の建物を管理活用。建物の管理を行い、店舗を貸出。



明治40年築、布問屋
市田家の屋敷と蔵

大正8年築、彫刻家
のアトリエとすまい

大正8年築町家
店とすまい

大正5年築、
昭和の喫茶店

昭和13年、木造
3軒を店とすま
いに

（2）調査研究

建物、暮らし方、歴史資料、保存方法の調査研究。市田邸の蔵の中の古文書や商売記録など、生活資料についても調査、リスト化

（3）つどい・勉強会

地域内外の人の啓蒙・交流を目的とした会合の企画・運営の実施

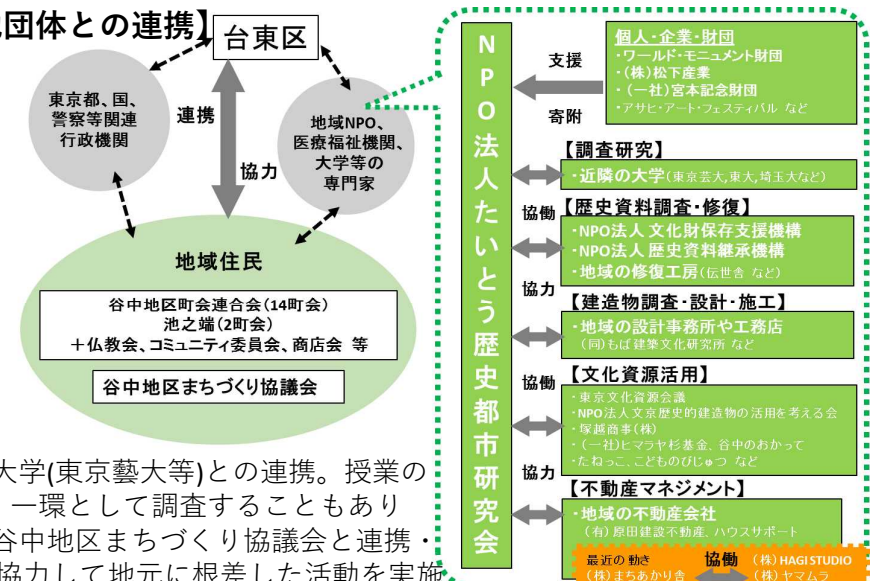
（4）情報発信

会報やWEB、メールなどを通じた地域の情報発信

（5）相談・助言

木のすまいを住み継ぐための相談や助言

【他団体との連携】



- 大学(東京藝大等)との連携。授業の一環として調査することもあり
- 谷中地区まちづくり協議会と連携・協力して地元に根差した活動を実施
- 様々な地元の民間事業者と協働し、各々の得意分野を生かした、文化資源の調査や活用、まちづくりを実施

【最近の地域事業者との連携】

平成29年4月、NPOたい歴の理事を含む民間事業者（設計・不動産・施工・エリアマネジメント関係の4名）が㈱まちあかり舎を設立。㈱HAGI STUDIO（戦後の民家等を資金調達・改修し宿泊施設やカフェとして運営を行う）も参画。NPOたい歴がこれまでの地域住民との繋がりや文化財の知識を提供。新たな歴史的建造物のマネジメント・活用・運営を予定している。

【効果】

- 当NPOが実施してきた歴史的建造物の活用例を、現地あるいはニュースや新聞等で目にしたことで自分たちにもできるのではないかと始める地域住民が現れるなどの波及効果
- 歴史や文化を町の魅力として発信していくという機運の高まり

佐原おかみさん会

【取組のポイント】

- 古い調度品、昔の商売道具、暮らしぶり、伝統の味や技、様々なコレクションなど佐原の商家に残るお宝を公開・活用し、伝統的なまちなみからなる市街地全体を博物館に見立てる「佐原まちぐるみ博物館」を運営
- 佐原を大切に思う女性「おかみ」達が、各家で展示やイベントを行う「楽芸員」となって、来訪者をもてなし、まちの魅力を伝える

【組織の概要】

- ・佐原生まれ・育ちのみならず結婚による移住者も含め、佐原を大切に思う女性からなる任意団体
- ・各家に伝わるお宝を公開することで、佐原のまちの魅力を発信し、まち中を廻って楽しんでもらうことを目的とする

【設立の経緯】

- H10年、佐原の一軒の商家が古い家財道具やお雛様を展示したことに端を発し、伊能忠敬記念館の学芸員の呼びかけによって数軒の商家でお雛様の展示が始まる
- 以上の取り組みを発展させ、H16年に商家28軒にてお宝を公開する「佐原まちぐるみ博物館」が誕生
- H17年に佐原を大切に思う、地元商店の女性「おかみ」が中心となり「佐原おかみさん会」の活動を開始、「佐原まちぐるみ博物館」を運営
- 平成29年、会員は19人で、博物館には43軒の商家等が参加

【事業内容】

重要伝統的建造物群保存地区が中心となる市街地に点在する商家などで、各家に残る家財道具や商売道具、コレクションなど、自慢の宝を公開し、佐原のまちをまるごと博物館とする「佐原まちぐるみ博物館」を運営

- ・年間を通じ、古い家財道具などお宝の常設展
- ・季節毎の企画展

雛めぐり、五月人形めぐり、お正月飾り等

- ・「楽芸員」であるおかみやオーナーが由緒や見所を解説
- ・また、灯ろう流しや竹灯り、めぐり茶屋（野点）、演奏会、WS等の地域活性化イベントを、地域の団体、高校、小学校、幼稚園などと連携して実施

【効果】

- ・生活に密着した佐原の伝統の技や文化の活用が、伝統的なまちなみを舞台に総合的・一体的に展開し、魅力的なまちづくりに繋がっている



めぐり茶屋



さわら雛めぐり



正月飾り



さわら雛めぐり



さわら・町並み・竹灯り

Kiraku Japan 合同会社

【取組のポイント】

- 宮崎県日南市より「まちなみ再生コーディネーター」業務を受託し、日南市飫肥地区にてまちなみ再生事業及び古民家を活用した宿泊事業を展開
- 地域金融機関からの融資と、地域経済活性化支援機構（REVIC）が出資する観光活性化マザーファンドによる社債引受けにより、民間からの資金調達を実施
- 再生された古民家宿・地域のネットワークづくりを始めており、全国に散らばった文化資産のプラットフォーム化を目指している

【会社概要】

所在地：京都府京都市

設立：平成27年6月

概要：IT・金融・ホテル投資がバックグラウンドのメンバーが、宿泊事業者向けシステムコンサルティング、まちなみ再生、古民家活用を行うことを目的として設立。古民家特化型ウェブサイト「キラク・コレクション」では再生された古民家宿・地域のネットワーク路線づくりを始めている。

【日南市における取組内容】

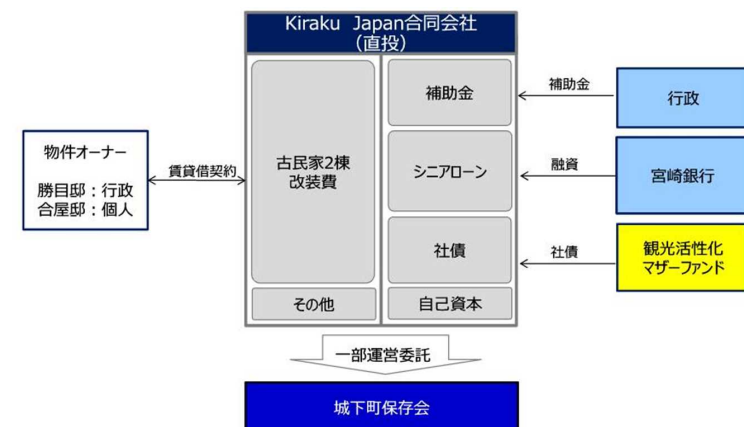
- 平成27年8月より、宮崎県日南市より「まちなみ再生コーディネーター」業務を受託し、日南市飫肥地区の文化資産の保存・利活用、並びに地域全体の活性化を目的に、マーケティング等の地域活性化事業を実施。
- 宮崎県日南市飫肥にて、当該地区で空き家となった古民家2棟を修繕し、平成29年4月に高級宿泊施設「季楽 飫肥」としてオープン。宿泊施設の運営は、一部地元の城下町保存会に委託。
- 「季楽 飫肥」の稼働率は上昇傾向にあり、平成29年8月時点で平均宿泊単価4万円、稼働6割近い水準に達しており、インバウンド集客についても拡大予定。
- 飫肥において、中核となるような大型施設の基本計画も現在6棟策定中。
- 現在京都でも取り組んでいる大型町家の再生案件を始め、その他地域でも宿泊施設の展開を予定。

右：「季楽 飫肥」勝目邸 外観
（出典：Kiraku Japan プレスリリース）



【資金調達スキーム】

観光活性化マザーファンドおよび地域金融機関の宮崎銀行、行政の3者による協調支援により、飫肥地区に開業した2棟の古民家宿泊施設の資金を調達。



（出典：歴史的資源を活用した観光まちづくりタスクフォース資料）

【効果】

- 観光客、宿泊客数の増加（オープンより9月末まで宿泊客数は300人ほど）
- 地元建設業者への施工発注、運営等の地元業者への委託、宿泊者向け体験による新規ビジネスに伴う地元業者の売り上げ増加等の経済波及効果
- これまで活用されていなかった文化・文化財の活用
- 全国に散らばった文化資産のプラットフォーム化

株式会社ちいおりアライアンス

【取組のポイント】

- 地域に残る資源（空き家）を上質な滞在施設として改修して活用し、その周辺事業も整備することによって、この5年ほどで滞在型ツーリズムを根づかせた
- 公共事業によって改修した古民家宿泊施設を、地域住民の交流イベント会場として使用するなど、地元住民を積極的に巻き込む活動により、地域産業として認識されてきている
- 事業の採算性を重視し、地域と移住者が将来への不安なく継続して働ける環境の整備を行っている

【会社概要】

所在地：徳島県三好市東祖谷釣井209

設立：平成27年12月14日

事業：地域資源（古民家等）を活かした地域活性化事業、宿泊施設や空家の運営・管理、宿泊事業運営コンサルティング、旅行商品開発等

目的：地域資源（古民家、地元の産品）を活かし、景観や生活習慣の保存・活用によって、過疎等の社会課題の解決をはかり地域の経済的自立を促す

【設立の経緯】

東洋文化研究者アレックス・カー氏によって設立された簾庵有限会社が、全国の地域活性化のコンサルティングを行う。さらに平成17年には祖谷再生を目的として「特定非営利活動法人 簾庵トラスト」の活動を開始し、カー氏が昭和48年に購入した古民家「簾庵」を宿泊施設として改修。主に施設運営を担う組織として平成27年にちいおりアライアンスを設立。



簾庵（ちいおり）の外観

出典：四国大陸HP（<http://459magazine.jp/life/6094/>）



体験プログラム（地元住民に教わる郷土料理づくり）

出典：桃源郷祖谷の山郷HP（<http://tougenkyo-ya.jp/index.html>）

【事業内容】

- 地域資源の活用
 - ・古民家宿泊施設の運営管理（徳島県祖谷、香川県宇多津町等）
 - ・空家の活用
- 地元の産品を活かした観光産業振興
 - ・地元食材を使った郷土料理
 - ・山村集落の生活習慣、生活様式の体験プログラム
 - ・地元の産品（和紙、番茶等）のオリジナルグッズ制作、販売
- まちづくり関連イベント開催
 - ・地域活性化に係るシンポジウム（ちいおりアカデミー等）
 - ・重要伝統的建造物群保存地区ガイドツアー

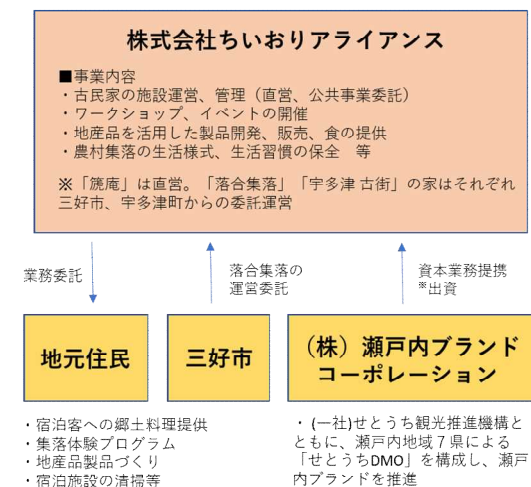
【効果】

- 市域への観光客の増加
- 域内の雇用者給与を毎年7～8%ずつ昇給

【現状の課題】

- 地域の高齢化による深刻な担い手の減少
⇒移住をテーマとしたイベントを地元だけでなく東京等でも実施するなど、課題解決に向け尽力

【他団体との連携】



特定非営利活動法人 歴史体験サポートセンター 楽古

【取組のポイント】

- 「八尾市立しおんじやま古墳学習館」の運営のみならず、幅広い世代、地域に向けて歴史体験学習を提供
 - ・ 歴史体験教室として、古代のモノづくり体験やセスナ機古墳ツアー等を企画運営
 - ・ 独自のPRキャラクター「ハニワこうてい」を活用し、市内外に広く普及啓発

【組織概要】

- 住 所：大阪府南河内郡河南町大字白木1152番地
 設 立：平成15年8月1日
 目 的：歴史体験学習を様々な人・場所に提供する活動を行い、生涯を通じた学習、地域に根ざした学習をサポートすることにより、体験することの楽しさ、学ぶことの面白さを伝え、精神的に豊かな社会の実現に貢献する

【設立の経緯】

- 平成13年に歴史体験学習を提供するボランティア団体として活動開始
- 平成15年に、NPO法人化
- 平成17年から「八尾市立しおんじやま古墳学習館」の指定管理者となり、史跡心合寺山古墳の管理や学習館で歴史普及活動を実施

【事業概要】

- 歴史体験教室の実施
 - ・ 古代のモノづくり体験：勾玉づくり、土笛づくり等
 - ・ セスナ機古墳ツアー：史跡心合寺山古墳だけでなく、百舌鳥・古市古墳群をセスナ機に搭乗し、上空から見学
 - ・ 古代人の衣装体験、火おこし・古代食体験
 - ・ 子ども向け講座、出前講座等
- 体験材料・関連商品の販売
 - ・ 学習館ミュージアムショップ等で販売
- 普及啓発
 - ・ 商業施設での史跡及び学習館等の広報
 - ・ PRキャラクター「ハニワこうてい」の活用
 - ※着ぐるみ等を学校単位の古墳見学や出前講座等で活用
 - ・ ホームページ、ブログ等での発信
- 人材養成
 - ・ ボランティアの養成
 - ・ 社会教育や地域振興を専攻する学生の実習(業務体験)

【効 果】

- 幅広い世代・地域に向けた普及啓発の進展
 - ・ 専門的知識を有した組織・人材による体験プログラムの実施や「ハニワこうてい」等を活用した広報
- 地域経済への波及効果
 - ・ 古墳懐石弁当：セスナ機古墳ツアーの昼食として、地元の懐石料理店と提携し商品開発
 - ・ ハニワこうてい煎餅：地域の菓子店と提携し商品開発



史跡 心合山古墳
(提供：しおんじやま古墳学習館)



セスナ機古墳ツアー(出典：しおんじやま古墳学習館HP)



ハニワこうていを活用した静岡県での出前講座(出典：しおんじやま古墳学習館HP)



古墳キーホルダー(出典：しおんじやま古墳学習館HP)

特定非営利活動法人 古材文化の会

【取組のポイント】

- 建物の持ち主を対象とした古民家や町家の活用・再生に係る相談活動、古材・古建具活用のための古民家調査・研究、市民向け講習会など、古材・古建具の保存活用における普及啓発活動を継続して実施
- 歴史ある建造物の効果的かつ迅速な保存・活用のため、行政と連携し、人材養成のための講座を実施。さらに講座修了者を中心とした組織を結成し、活躍の場をつくるとともに、様々なプロジェクトの推進や、全国の団体との連携を図っている
- 建造物の維持管理に係る相談活動にとどまらず、運営主体の経営に係る改善提案により、継続的・効果的な支援活動を行う

【団体概要】

所在地：京都府京都市東山区本町17-354

設立：平成13年4月（団体は平成6年に結成）

- 目的：①古建築及び古材の保存・活用促進
②伝統的木造建築文化、建築技能の継承・発展
③資源と共存する持続可能な社会の実現

【事業内容】

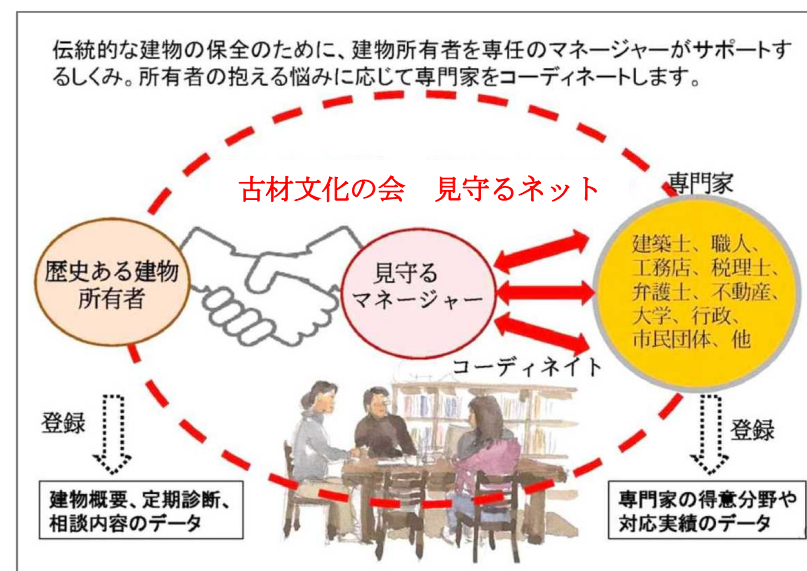
- 古材・古建具の活用に係る活動（古民家等の活用に関する相談、建造物の調査、情報の整理・発信など）
- 一般市民等向けの周知活動（木造建築見学会や建物修理の講習会など）
- 人材養成活動（「京都市文化財マネージャー育成講座（建造物）」の実施、講座修了者の組織「KOMO」の結成）
- 歴史的建築物所有者支援システム「残したい建物を見守るシステム」の試行運営。類似事例の調査、運営収支の分析・検討を行い、経営改善策を提案
- 支援システムの試行結果をふまえ、平成29年度より「見守るネット」の運営開始（KOMOメンバーで構成される「見守るマネージャー」が専門家と所有者のマッチングを行う事業）

【効果】

- 平成28年末時点で363名が人材養成講座を修了
- 「見守るネット」において、8件の建物の保全活用活動を支援。今後、徐々に件数を増やしていく予定

【他団体との連携】

- 京都市
- (公財) 京都市景観・まちづくりセンター



専門家及び見守るマネージャーによるサポート例

■建物改修・メンテナンス

- ・改修設計、改修工事
- ・長期修繕計画の策定
- ・メンテナンスワークショップの企画・実施

■空家活用

- ・空家の利用者マッチング支援
- ・空家活用の事業化支援
- ・税務相談

■その他

- ・建物公開など、イベントの企画・運営支援
- ・古文書などの歴史資料のアーカイブ

高山市景観町並保存連合会

【取組のポイント】

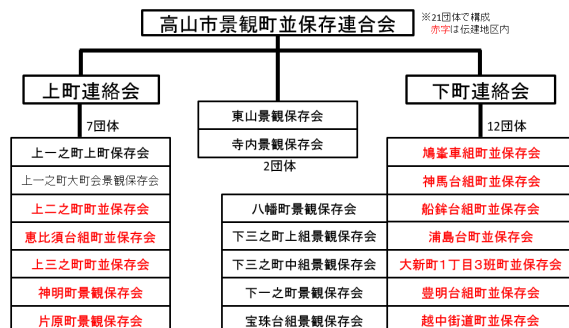
- 江戸時代の町内会組織単位である「組」をいかした景観町並保存連合会を組織し、総合的に歴史文化遺産を保存・活用
 - ・高山祭の屋台組（屋台を維持管理する組織）を基礎として町並・景観保存会がつけられている
 - ・組単位でまちなみ保存活動が活発に行われ、市内全体で組織化されている
 - ・高山祭の屋台行事をはじめ、伝統的な飾り物、年中行事、民俗行事等、様々な文化活動が、伝統的建造物のまちなみで行われている

【組織概要】

住 所：岐阜県高山市
 設 立：昭和57年
 目 的：町並・景観保存会21団体が一体となり、共通の課題等に対応するため、自主規制などの検討や住民への周知の徹底、次世代への継承の取組などを行う

【設立の経緯】

- 昭和26年に「高山屋台保存会」が発足する等、早くから地域住民の自発的な保存活動みられた
- 高度経済成長期に観光都市として発展する一方、開発行為の影響による歴史文化遺産の滅失等が地域で課題となった
- 昭和41年、地域住民の自発的な保存活動が活発化し、全国に先駆けて「上三之町町並保存会」が設立
- 昭和47年、「高山市市街地景観保存条例」が制定
- 昭和54年、「高山市三町伝統的建造物群保存地区」が重要伝統的建造物群保存地区に選定
- 昭和57年、「高山市景観町並保存連合会」発足



高山市景観町並保存連合会組織図
 (出典：高山市歴史的風致維持向上計画)



まちなみと屋台
 (出典：高山市歴史的風致維持向上計画)

【取組の概要】

- 伝統的なコミュニティを活用したまちなみ保存
 - ・町並・景観保存会が高山祭の屋台組（屋台を維持管理する組織）を基礎として組織されていることが多く、「地域」や「行事」の伝統的な組織が関係しあい、行政と連携して取り組んでいる
- ＜景観町並保存連合会の取組＞
 - ・町並保存部会、広報部会、子供伝承部会で構成され、まちなみ保存の共通の課題等に連携して取り組む
- ＜構成する各保存会の取組例：上三之町町並保存会＞
 - ・保存事業（町並整備申し合わせ事項の周知徹底等）
 - ・防災事業（建造物補強計画、防火訓練等）
 - ・町並整備事業（景観保存等の諸問題解決策の検討・実行等）等
- 重要無形民俗文化財「高山祭の屋台行事」の運営
 - ・屋台組を中心とした重要有形民俗文化財「高山祭屋台」の保全及び屋台行事の実施
- 伝統的な生活文化（飾り物、年中行事、民俗行事等）の実施
 - ・ひな祭り、七夕飾り等の実施

【効 果】

- まちなみ・景観の保存・活用の進展
 - ・重要伝統的建造物群保存地区に2地区が選定（※平成16年、「高山市下二之町大新町伝統的建造物群保存地区」選定）
- 文化財の総合的な保存・活用の進展
 - ・屋台組を基礎とした保存会が、保存連合会を組織し連携することで、まちなみと高山祭等の民俗行事等との一体的な保存・活用が進展
- 伝統的な組織をいかした取組によるコミュニティの活性化



町並保存会の活動七夕飾り
 (出典：高山市歴史的風致維持向上計画)

NPO法人 北海道鉄道文化保存会

【取組のポイント】

- 北海道各地に遺されている近代化を支えた鉄道資料を「かけがえのない北海道の文化財」として捉え、後世に継承する運動を実施。
- 会員がボランティアにより車両補修、清掃を実施の上、小樽市総合博物館にて展示し、次の世代に正しく伝えていく。
- 旧手宮線を活用した観光マップの作成やイベントを開催することにより、地域の活性化を促進。

【組織概要】

所在地：北海道小樽市手宮1丁目3番6号

代表者：理事長 飯田勝幸

設立：平成20年7月

構 想：北海道各地に遺されている近代化を支えた鉄道資料を「かけがえのない北海道の文化財」として捉え、近年の地方財政の悪化や保守に関わる人たちの高齢化などといった窮状を打破し、永く後世に継承するべく、運動を展開。

【設立の経緯】

- 平成18年10月 小樽市総合博物館がリニューアルオープンのためのボランティアを募集。活動分野に「交通」があり、活動内容に車両補修があった。
- 平成19年1月 有志による車両の補修が開始。
- 平成19年3月 地方財政の悪化を鑑み、将来的に安定した補修費用の確保のため、有志によりNPO法人の設立を準備。
- 平成19年7月 小樽市総合博物館の開館に伴い、補修した車両の公開を開始。
- 平成20年7月 複数回に渡る準備会や打合せ、設立総会を経てNPO法人を設立。

【効果】

- 車両補修による文化遺産の継承（蒸気機関車など約30両を補修）
- シンポジウム開催に伴う地域住民の文化遺産に対する機運向上（シンポジウムは10回開催）
- 補修した鉄道車両の公開やイベントの開催による地域への観光客の増加（イベントは12回開催）
- 道内14団体からなる北海道鉄道遺産ネットワークを設立し、広域連携したイベント等を実施

【事業内容】

< 鉄道車両の保守・補修事業 >

北海道各地に展示・保存されている車両を、北海道近代化の文化遺産としてとらえ、永く将来に伝承。

- ・ 会員がボランティアにより車両補修、清掃を実施

< 鉄道文化財の保存啓発事業 >

北海道各地に保存されている鉄道車両が、北海道の発展にどのように関わってきたかを次の世代に正しく伝えていく。

- ・ 小樽市総合博物館での補修した車両の展示や解説書の作成
- ・ 鉄道車両、施設の実態調査
- ・ シンポジウム等開催

< 鉄道文化による地域振興事業 >

鉄道遺産を保存活用し、地域の活性化に向けての活動を促進。

- ・ 旧手宮線沿線の観光マップの作成
- ・ 旧手宮線を活用したイベントの開催（トロッコ運行、レールカーニバル開催）
- ・ 旧手宮線沿線に花を植える活動「花と鉄路の散策路」の造成



左：車両補修の様子 右：レールカーニバル（出典：北海道鉄道文化保存会HP）

特定非営利活動法人 西沼田サポーターズ・ネットワーク

【取組のポイント】

- 遺跡の発掘や整備の段階から地域住民を巻き込み、活動が続けてきた。結果として遺跡が地域住民の憩いの場や交流の場となりながら、遺跡の保存管理や活用が行われている。
- 遺跡の調査・研究を大学機関と連携して継続して行い、新たな発見を明らかにするだけでなく、それを生涯学習活動に生かしている。

【設立の経緯】

- 天童市が西沼田遺跡を整備する際に、将来的に管理は地域住民に行ってほしいと考えていた。
- H17年、天童市が遺跡の所在する蔵増地区の地域住民を対象に、「西沼田遺跡の将来を語る懇談会」を主催し、1年半活動を行った後、H18年に「特定非営利活動法人 西沼田サポーターズ・ネットワーク」が発足、その翌年に設立した。
- 天童市からの指定管理を受け、活動を行っている。

【設立の目的】

歴史を中心とした生涯学習活動に関する事業を行うために各種団体や住民組織等と連携を図り、また遺跡の調査・研究を継続して行い、文化財の管理保管保存及び公開に関する事業を行うことにより、心身共に豊かな社会の健全な発展に寄与することを目的とする。

【効果】

遺跡の保存・管理だけでなく、地域住民が中心となって活動を行うことで、遺跡が地域住民の憩いの場や交流の場となった。

また地域住民がこれまでの経験を生かして活動に関わってくれ、遺跡公園が行う一般向けの体験講座の講師を務めたり、草刈りをしてくれたりなど、地域住民によって支えられている遺跡となった。

国指定遺跡「西沼田遺跡」とは？

6世紀を中心とする古墳時代の農村集落。土師器・須恵器などの遺物の他に木製農具や建物に使われた建築部材などの木製品も腐らず出土した遺跡。

【事業内容】

<遺跡の管理・運営>

天童市からの指定管理を受け、遺跡の管理・運営をおこなっている。

- ・雪囲い、一斉草取り、イベントの運営、視察研修 等

<生涯学習活動>

様々な生涯学習を展開。

- ・古代米作りや餅つき、土器作り、リース作り、ひょうたん細工
- ・豆腐作りの講座（材料は園内で会員らが栽培）
- ・天童市商工会議所女性会主催の小学校環境・エネルギー問題作文絵画コンクール作品展

<遺跡の調査・研究>

首都大学との連携で、からむしの栽培や、地機（じばた）の復元を行っている。

- ・会員には月に一回会員活動として、現在取り組んでいる活動の体験や調査・研究の結果などの共有をおこなっている。



リース作りの様子



NPOの総会の様子

（出典：特定非営利活動法人 西沼田サポーターズ・ネットワークのブログより）

中村ブレイス株式会社による取組

【取組のポイント】

- 空家となり取り壊しが懸念されていた古民家等の歴史的建造物を数多く買い上げ、会社施設や社員のための住宅として有効に活用すると共に、オペラハウスなどの文化施設や地域の活性化に繋がる店舗などにも再生している
- その結果、山深い当地域において充実した生活が実現するまちが創造されており、I・Uターンが促進され、地域人口減少の歯止めに繋がっている
- また、国際的な交流も展開しており、世界遺産とリビングヘリテージとしての重要伝統的建造物群保存地区が相まって、観光の促進にも繋がっている

【会社概要】

所在地：島根県大田市大森町（本社）

創業：1974年12月

代表者：代表取締役 中村俊郎

概要：臨床における医療スタッフとして義肢装具の製造・適合業務義肢装具の開発、身体各部の欠損や損傷を補正する器具の研究・開発を行う会社。起業以来、地域再生に取組む。

【地域再生の取り組み】

- 空家となった古民家等歴史的建造物の買上、修理、再生、活用
- 再生された建造物は、これまでに55棟（2017年9月現在）
- 活用と再生の内容
 - ・会社施設、社員等の居住する住宅
 - ・「町に文化力を」をコンセプトとする文化施設（迎賓館兼資料館、ゲストハウス、オペラハウス等）
 - ・観光宿泊施設、企業研修施設
 - ・地域の経済活動に貢献する地元住民向けの貸店舗

【取り組みの経緯】

- ・中村俊郎氏が過疎化の進む大森町にUターンし、自宅前の納屋を改造して義肢装具製作会社を起業
- ・その後、これまでに55棟の空き家を買上げ、建物を再生。
- ・ドイツ製パンマイスターの資格保有者や海外の著名な音楽家を招くなど、国際的な交流も展開している



地元住民向けの貸店舗
「銀の店・味の店・ちいさな店」



水仙の店



世界一小さなオペラハウス



ドイツパン屋



公益財団法人 永青文庫

【取組のポイント】

- 細川藤孝（幽斎）を初代とする細川家に伝来の文化財の散逸を防ぐ目的で設立。
- 細川家に伝来する歴史資料や美術品等の文化財を管理保存・研究し、一般公開。
- 自ら美術工芸品の調査・研究をするとともに、古文書・漢籍等を大学等に寄託して膨大な所蔵品の研究を行っている。

【設立の経緯】

- 昭和25年、細川護立により財団法人が設立される。
- 昭和47年から一般公開開始。
- 昭和48年、博物館法による登録博物館に。



【組織の目的】

細川家に伝来する歴史資料や美術品等の文化財の散逸を防ぐ。

【永青文庫の所蔵品】

- 所蔵品は、細川護立及び細川護貞から寄付を受けたもの。
- 約6,000点の美術工芸品と58,000点の歴史的文書を所蔵（うち、国宝8件、重要文化財32件）。

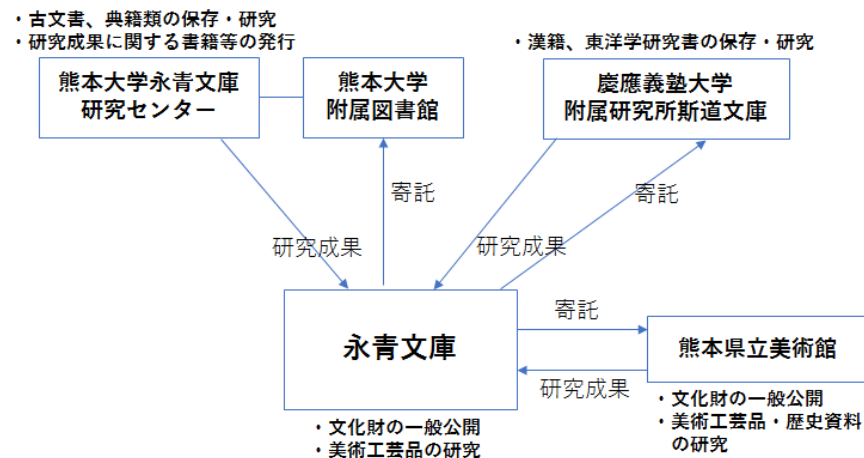


左から「時雨螺鈿鞍（国宝）」、「太刀 銘豊後国行平作（国宝）」、「金銀錯狩
獵文鏡（国宝）」（永青文庫蔵） <http://www.eiseibunko.com/>

【所蔵品の展示・寄託等について】

- 毎年4つの会期に分けて所蔵品を公開展示し、熊本県立美術館の細川コレクション常設展示室でも年数回にわたって展示。
- 永青文庫では、主に美術工芸品についてコレクションの全容把握のため、所属の学芸員と外部専門家が協働して調査・研究を行っている。
- 藩政資料等の古文書・典籍類については、昭和39年に熊本大学附属図書館に寄託している。現在は熊本大学永青文庫研究センターにて研究が進められ、研究成果が地域振興に活用されている。
- 漢籍及び欧州で刊行された東洋学研究書（コルディエ文庫）については、慶應義塾大学附属研究所斯道文庫に寄託。現在でもほぼそのままの形で保存され、研究が進められている。

【関係機関】



一般社団法人 MBTコンソーシアム

【取組のポイント】

- 高齢化する住民の健康維持と景観保全を融合させる「MBT（医学を基礎とするまちづくり）」を提唱し、交流と医療の場を創出する「まちなか医療」という取組を実施
- 重要伝統的建造物群保存地区の橿原市今井町では、外国人を含む短期滞在研究者用ゲストハウスとして、空き家となり老朽化した伝統的建造物を再生。医学生や看護学生のためのシェアハウスや、大学の健康講座やリハビリの場としても空き家を活用
- 奈良県立医科大学や、今井町にMBT研究拠点を開設した早稲田大学とも連携し、地域交流の催しの開催や実証実験を実施

【組織概要】

所在地：奈良県橿原市四条町

代表者：理事長 細井裕司（奈良県立医科大学 理事長・学長）

設立：平成28年4月

構 想：高齢化する住民の健康維持と景観保全を融合させる「MBT（医学を基礎とするまちづくり）」を標榜し、交流と医療の場を創出する「まちなか医療」という取組を実施。また、医学・看護学に関する知見を民間企業に提供し、新たな産業や製品を創出する。

【設立の過程】

- ・平成18年 奈良県立医科大学でMBTの前身「住居医学」の研究開始
- ・平成24年 奈良県立医科大学と早稲田大学のMBT共同研究が始まる
- ・平成26年 橿原市・奈良県・奈良県立医科大学共同のMBTの視点を含みまちづくり提案が内閣官房地域活性化統合事務局、内閣府地域活性化推進室による地域活性化モデルケースとして採用
- ・平成27年 医療・観光・交通等を組み合わせた一体的なまちづくりの橿原市地域再生計画が、内閣府の地域再生制度により認定
- ・平成28年 一般社団法人MBTコンソーシアム設立

【事業内容】

- 今井町にて、外国人を含む短期滞在研究者用ゲストハウスとして、空き家となり老朽化した伝統的建造物の外観等を保ちながら再生。平成29年10月に完成予定。
- 今井町の空き地や空き家を活用し、医学生や看護学生に低家賃で貸し出すシェアハウスや、地域住民との種々の交流ができるスペース等を設けた施設等への改修を検討中。
- 健康増進と地域の歴史・文化を融合させた地域交流行事や健康教室等を、奈良県立医科大学、地域団体とともに共同開催。

【効果】

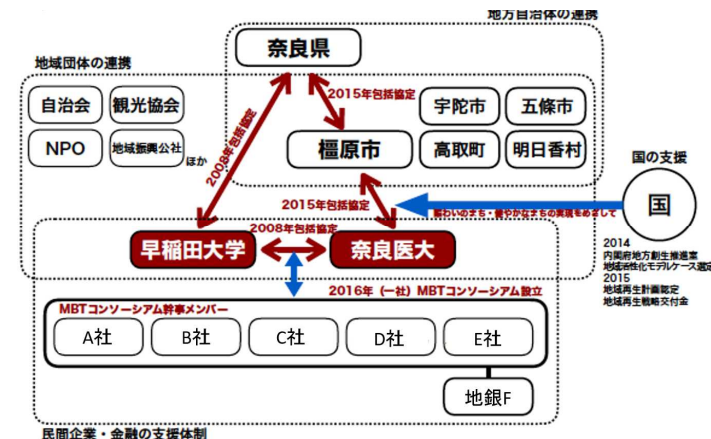
- 空き家の有効活用による地域再生
- 地域の歴史文化資産の有効な活用
- I・Uターン住民の増加
- 人口減少に歯止め
- 地域経済の活性化



今井町にて完成間近のゲストハウス

【他団体との連携】

- ・奈良県立医科大学と連携し、金融機関や民間企業の活力を導入して、医師・医学者・看護師と企業との連携を促す。
- ・90社以上の民間企業・団体会員を擁す。
- ・奈良県立医科大学や、今井町にMBT研究拠点を開設した早稲田大学とも連携し、地域交流の催しの開催や実証実験を実施。



MBTの関係者イメージ(出典：早稲田大学研究院フォーラム2016資料)

特定非営利活動法人 尾道空き家再生プロジェクト

【取組のポイント】

- 人口減少、少子高齢化が進行し空き家問題に直面する地域を、歴史文化と空き家を生かして再生
 - ・尾道市と連携した空き家バンクの運営、空き家の再生、定住まで一貫した支援を実施
 - ・古民家を再生した宿泊施設等を、観光や移住希望者と地域を結びつける拠点として自ら運営

【組織概要】

住 所：広島県尾道市三軒家町3番23号

設 立：平成20年6月30日

代表者：豊田雅子

目 的：空き家の再生や空き家バンクの活性化事業などを通して、古い町並みや景観の保全、移住者・定住者の促進による町の活性化、そして、新たな文化・ネットワーク・コミュニティの構築を目的とする

【事業概要】

○尾道市と連携し景観を守りつつ、空き家を再生・活用

<町並み保全のための空き家再生>

- ・空き家再生事業：登録文化財2件を改修する等、多くの空き家を再生・活用

「旧和泉家別邸」(貸しスペース)

「みはらし亭」(宿泊施設)

<定住促進とコミュニティの確立への取組>

- ・尾道空き家談義：空き家に関する情報交換をととしたネットワークづくり

- ・空き家バンク：尾道市からの委託事業として、窓口業務全般、相談会開催、新規登録業務等を行う

<空き家を再生・活用した宿泊施設・不動産賃貸の運営>

- ・宿泊施設：「あなごのねどこ」「みはらし亭」の2件を運営
- ・不動産賃貸：「北村洋品店」(交流スペース)、「三軒家アパートメント」(ものづくり・アートの発信拠点)等の7件を運営

<普及啓発等>

- ・尾道まちづくり発表会：空き家問題を研究する学生や空き家を再生・活用した移住者等が発表
- ・尾道建築塾：建物や町並みの見学、再生現場での作業体験ワークショップ

【効 果】

- これまで活用されていなかった文化・文化財の面的な活用
 - ・2件の登録文化財を含む100件以上の空き家を宿泊施設や店舗等として再生
- 空き家のマッチングから再生、定住まで一貫した移住支援による定住者促進
 - ・活用可能な空き家登録130件、入居物件80件(H28年2月時点)
- 観光客(外国人を含む)の増加

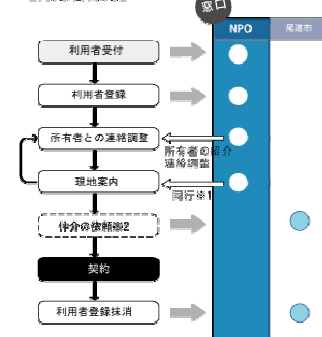


旧和泉家別邸
(出典：NPO法人尾道空き家再生プロジェクトHP)

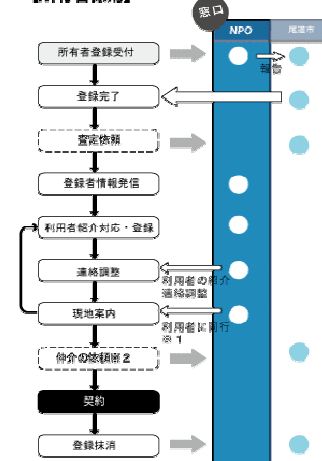


みはらし亭
(出典：NPO法人尾道空き家再生プロジェクトHP)

【利用者様用】



【所有者様用】



空き家バンク登録物件の契約の流れと役割分担
(出典：NPO法人尾道空き家再生プロジェクトHP)

(※1) 物件の内容説明はできない

(※2) 希望により契約の仲介を、尾道市から市内の不動産業者に依頼できる

一般社団法人ノオト

【取組のポイント】

- 人口減少、少子高齢化が進行する地域を、その土地に根ざした歴史文化と空き家を生かして再生
 - ・古民家等の歴史的資源と地域の食文化、生活文化を一体的に再生
 - ・文化財や町並みを活用した音楽祭、アートフェスティバル、マルシェのほか、ブライダルやコンベンション等のユニークベニューを展開

【組織概要】

住 所：兵庫県篠山市丸山42番地

設 立：平成21年2月21日

代表者：代表理事 金野幸雄

概 要：地域コミュニティをベースにしながら豊かな社会を創り出していくため、地域の未指定文化財群を活用することで、農村集落や城下町などの歴史地区再生事業を展開

【事業概要】

- 兵庫県篠山市を拠点に古民家の再生・活用を起点とした地域づくりを展開
- ＜文化財を生かした広域観光圏の形成のための取組：Opera＞
 - ・行政・金融機関・民間企業が連携する「地域資産活用協議会 Opera」の事務局として、地域の再生に取り組む各団体への中間支援
- ＜地域をひとつのホテルに見立てた取組：NIPPONIA＞
 - ・古民家等の文化財群を「ひとつのホテル」として面的に再生・活用することを独自に構想
 - ・資金のほぼ全額を民間資金(観光活性化マザーファンド等)で「篠山城下町ホテルNIPPONIA」を開業
- ＜限界集落を再生した取組：集落丸山＞
 - ・丸山地区の住民で構成するNPO法人集落丸山と(一社)ノオトで結成した「有限責任事業組合丸山プロジェクト」により「古民家の宿 集落丸山」を整備・運営
- ＜文化財の持続的な活用＞
 - ・地元のヘリテージマネージャーと連携した改修等
- ＜歴史的資源活用の地域連携協定＞
 - ・佐原(千葉県香取市)、湯河原(神奈川県湯河原町)、湯浅(和歌山県湯浅町)、有田(和歌山県有田市)など

【効 果】

- これまで活用されていなかった文化財の面的な活用
 - ・約70棟の古民家を宿泊施設や店舗等として面的に再生・活用
- 雇用と内発型産業の創出による若者の地方回帰
 - ・篠山城下町地区の空き家活用の事例では19事業、49名の雇用(うち24名が移住)を創出(平成28年4月1日現在)
- 耕作放棄地の解消
- 里山の再生
- 観光客と移住者の増加

地域資産活用協議会

＜地域づくり戦略＞

【歴史地区の再生】
 ・内発型産業(建築、食、観光等)の創出
 ・Uターン促進、創造人材の育成
 ・豊かな「暮らし」の実現
 ・多様な文化クラスターと国際的な広域観光圏の形成

【NIPPONIA】
 ①「歴史建築」に宿泊し、
 ②地場の「食」を味わい、
 ③地域の「暮らし」を体感する
 ツーリズム事業を展開

＜実績＞

・集落丸山(篠山市)
 ・篠山城下町(篠山市)
 ・旧木村酒造場EN(朝来市)
 ・豊岡1925(豊岡市)
 ・大屋大杉(養父市) など

地域資産活用協議会 Opera

(出典：文化財分科会企画調査会(第4回)ノオト資料)

Opera

地方公共団体	Opera構成員 H29.6現在 (但馬)豊岡市、養父市、朝来市 (丹波)篠山市
地域金融機関	但馬信用金庫 中兵庫信用金庫
中間組織	一般社団法人ノオト【事務局】
民間企業	パブリックマネジメント株式会社 シナジーマーケティング株式会社 株式会社 神戸新聞社 株式会社 乃科工務社 株式会社 VILLAGE INC 株式会社 NOTE



歴史文化遺産の面的な保存・活用

(出典：文化財分科会企画調査会(第4回)ノオト資料)



古民家の宿泊施設への改修
(篠山城下町ホテルNIPPONIA)

(出典：NIPPONIA HP等)